

令和5年度 赤穂西中学校区小中連携教育 活動記録

1 令和5年度 小中連携教育研究部会具体的実践

『本年度の研究テーマ』

- 小・中学校相互の授業研究を通して、子どもたちの実態の相互理解につとめる。
- 算数と数学の内容の系統性を把握し、指導の継続性を求めて、指導の改善を図ることにより、小・中学校9年間を見通した指導の相互理解につとめる。

2 赤穂西中学校区の活動報告

(1) 塩屋小学校

○実施日：令和5年6月15日（木） ○単 元：6年生算数科「分数÷分数」

○事後協議

- ・割り切れない計算の際には、商を分数で表すことができるように小学校段階でしっかりとおさえておくことが大切である。
- ・小学校では、様々な考え方を出し合いながら、よりよい解き方や公式を導き出すことに重点を置いているため、班や全体での話し合い活動を大切にしている。
- ・中学校では、授業の進度が上がるため、話し合い活動に取り組む時間を確保するのが難しくなるが、思考力を高めるためにも取り入れてほしい。
- ・中学校と比べると、授業の中で演習問題が少ない。分数を苦手とする生徒が中学校では多いため、授業での問題数をカバーするためには宿題など家庭学習でどれだけ問題数を解いて慣れることができるかも、小中のつまずきを減らすために大切だと感じた。
- ・小学校では、話し合いの時間を大切にしながらも、授業の後半で適応問題に取り組むことができるように、授業の内容や時間配分を工夫する必要がある。



(2) 赤穂西中学校

○実施日：令和5年12月6日（水）

○単 元：3年数学科「円」

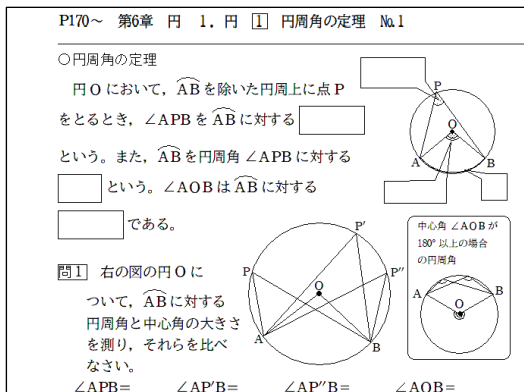
○事後協議

- ・中学校での1時間の授業のテンポが小学校に比べてかなり早い。
- ・協同学習については、小学校でしっかりと話し合い活動を行っていることもあり、中学校においても生徒達が抵抗なく自分の言葉で説明したり、教え合ったりすることができている。
- ・小学校から中学校への学習に繋げるために、家庭学習での演習問題を繰り返し解いていく中での定着を大切にしていきたい。
- ・タブレットのミライシードを活用して学習を小学校、中学校ともに行っている。ただ、生徒によって取り組みの質にばらつきがある。
- ・小中のつまづきの1つに、分数の問題が挙げられる。中学校で分数の問題、答えを小数に直す生徒が多い。協議の中で、小数だと筆算ができるので小数に直すのではという意見がでた。分数だと筆算ができず困惑するため、小数を使う生徒が多いと予想される。

P170～ 第6章 円 1. 円 ① 円周角の定理 №1

○円周角の定理
円Oにおいて、 \widehat{AB} を除いた円周上に点Pをとるとき、 $\angle APB$ を \widehat{AB} に対する という。また、 \widehat{AB} を円周角 $\angle APB$ に対する という。 $\angle AOB$ は \widehat{AB} に対する である。

問1 右の図の円Oについて、 \widehat{AB} に対する円周角と中心角の大きさを測り、それらを比べなさい。
 $\angle APB =$ $\angle AP'B =$ $\angle AP''B =$ $\angle AOB =$



3 まとめ

算数・数学は、系統性が強い教科であり、その系統性を利用して、新しい学習を解決して行く教科である。新しい学習には、どのような既習事項が必要か、この学習は次の学年のどの学習にどのように生かされるのかを理解して指導することによって、子どもの学びが連続する。

教師が指導内容の系統性を十分理解して、算数的活動を通して授業を行うことで、どの子にもわかる喜びやできる楽しさを感じ取らせることができるようになると思う。

また、学び方が身につく、学ぶ内容がわかると、主体的に学ぶ態度や学習意欲を高めることができる。子どもどうしの教え合いの中でも、もっとわかりやすく説明するために何が必要か、友達との考え方の違いを見つけたり、他の方法はないかと思ったり、学びを深める意欲や態度を育てることができる。

小中連携を通して、授業の進め方だけでなく、家庭学習など多岐にわたり情報共有することができた。この研究を通して、児童・生徒の基礎学力の向上と、思考力・表現力を伸ばしながら、学びを深めていきたいと思う。